

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	29	実施計画番号	61
事務事業名	十和田湖診療所整備の推進		
個別事業名		事業開始年度	平成18年度
担当課名	健康推進課	事務の種類	自治事務
根拠法令等	十和田市立診療所条例 第2条	関連事務事業	
背景や経緯等	平成18年度にへき地診療所施設整備費補助制度を活用し、診療所施設の整備を行なった。平成22年度から常勤医を確保したことから、それまでの土・日曜日診療から平日月～金曜日の診療を行なっている。		
事務事業の目的	地域住民及び観光客が安心して受診できるよう診療体制の充実を図る。		
実施状況	平成23年度はへき地診療所設備整備費補助制度を活用し、医療機器5台(自動血球計数器、生化学自動分析装置、内視鏡装置、超音波診断装置、心電計)を整備し、診療体制の充実を図った。		

## 【人件費の推移】

	22年度実績		23年度実績		24年度計画	
	診療所	健康推進課	診療所	健康推進課	診療所	健康推進課
正職員	従事者数(人)	1	2	1	2	2
	活動日数(日)	243	78	244	52	245
	人件費(千円)	21,914	5,616	22,397	3,744	29,328
正職員以外	診療所分	臨時看護師	臨時事務	臨時看護師	事務委託	事務委託
	従事者数(人)	1	1	1	1	1
	活動日数(日)	243	243	244	244	245
	人件費(千円)	4,524		5,688		2,823

## 【事業費の推移】

事業費合計(千円)	22年度実績	23年度実績	24年度計画
うち一般財源	40,509	54,858	50,243
うち国県支出金	7,602	10,815	16,365
うち地方債	10,998	13,178	12,278
うちその他	3,600	8,200	3,600
	18,309	22,665	18,000

※診療所分人件費については、事業費合計に含まれている。

## 【指標】

活動指標	活動指標名①	医師の確保				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
		人	1	1	1	
	活動指標名②	診療所開設日数				
成果指標	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		日	243	244	245	
	成果指標名①	医師の確保				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
成果指標		人	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	
			達成度(%)	100%	100%	
	成果指標名②	患者数				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		人	目標値	2,300	2,415	2,900
		実績値	2,447	2,845		
		達成度(%)	106%	118%		

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	29
計画No	61

## 【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4  十和田湖畔地区から最寄りの医療機関(大湯リハビリ病院)までは、約25kmの距離があり、地域住民及び観光客の医療の確保のためには、事業の妥当性は十分にあると考えられる。		
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2				
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6  平成22年度に常勤医師を確保したことにより、これまでの土・日曜日の診療から平日月～金曜日の診療を行なっている。また、平成23年度に検査機器等の医療機器を整備したことにより、地域住民や観光客への医療サービスの向上が図られた。		
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2				
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2				
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2	6	コスト削減の余地 0 / 6  平成24年度現在診療所は、医師1人(正職員)、看護師1人(任期付職員)、医療事務員1人(委託)の3人体制で運営されており、効率的に実施できていると思われる。		
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2				
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2				
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4  診療報酬体系上考慮されており、受益の偏りはないと思われる。		
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2				
					現在の適性	20 / 20	改善の余地	0 / 20

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

⇒

現状のまま継続

### 方向性の理由

へき地診療所の役割である地域住民の医療の確保と観光客への医療の提供のため、安定的な診療体制の継続が求められている。

### 今後の具体的な取組み方策と狙う効果

へき地診療所としての医療ニーズを確認し対応するとともに、事業所健診等を積極的に受け入れ、医療収益の向上を目指す。